

平成19年度 第3回伊勢地区地域審議会

平成20年2月18日 午後7時～8時10分

伊勢市役所東庁舎4-2会議室

出席委員 櫻井治男（会長） 小川斌夫（副会長） 垣崎まゆみ 杉田英男 竜田和代 中村基記
西山裕司 前田世利子 春木千富 山崎智 山本はるみ
欠席委員 石田美和 太田浩司 奥田良平 奥野長衛 田村昭十郎 西浜隆 松月広子
（敬称略）

「新市の一体感の醸成について」 会長より市長へ答申書の提出

市長よりお礼の挨拶

大変寒い中、夜分に関わらずありがとうございました。長い期間にわたって熱心に議論をいただいた答申をいただくことになり、みなさんの取組に対して敬意と感謝を申し上げます。

今回の諮問(新市の一体感の醸成)は合併以来の大変大きな課題として諮問させていただきました。市民の皆さんに納得してもらいながら心をつにしていける場を作っていかなければならないと考えていました。その施策については、いろいろなお立場の皆さんからご意見をいただくことが入り口として大切ですので、地域審議会に諮問をさせていただきました。

皆さんの熱意でつくっていただきました答申ですので、その内容についてはしっかり精査をさせていただきながら一体感の醸成に取り組んでいきたいと考えております。これからもご指導をいただければ大変ありがたいと考えております。このようにまとめていただきましたことに心からお礼を申し上げます。
ありがとうございました。

櫻井会長より答申の概要説明

平成18年10月から審議会を進めてきました。諮問内容が大きな課題でしたので、正規の会合の他、勉強会を兼ねた意見交換会を開催してきました。勉強会については、ほぼ毎月開催できました。勉強会では、毎回様々な課題について市の担当者に来てもらい話を聞きました。

答申案をまとめるにあたっては、具体的な提案と、それらを抽象的にまとめることができました。そこで大きな枠組みを提言としてまとめ、具体的なものをアイデア集としてまとめました。答申案は出来上がってから何度か委員の皆さんから意見をいただき、調整させていただき完成しました。

「はじめに」の部分を書いたのは合併をした意義と背景をしっかりと認識するためです。その中で委員の皆さんがおっしゃったのは基本的に住民も行政もこの時代の危機的な意識を共有していかないと、いつまでも前に進んで行かないのではないかということです。前文の中に時代状況の中から危機感を持って臨むことを覚悟しようということで、この部分を入れました。

次に、みんなが共有することは新市の一体感を醸成することで、これが目標となります。

そうした目標に向けて、次の2番目に基軸としたのは、伊勢の歴史性と生活です。これは縦と横の軸で今、私たちが生活している状況と過去と未来をつなごうというもので、時間と空間という概念でまとめた内容になっています。時間的には、お伊勢さんを共有のものとして、長らくこのまちが育ち、そうしたなかで発展してきました。空間としては、ご遷宮に向けて新しく奉曳団が結成されるなどの広がりがあり、そのことが共有されている内容であろうということ。また、既にこの地域は生活圏がひとつであり交流があったことを踏まえ、単に空間だけでなく、歴史を加えたこの2点が私たちにとって誇れるまとまりであると考えました。

そして3番目の視点として、市民が様々な活動をするときにも、あるいは行政が活動を行う場合でも、3つの視点を大事にしてはどうかということです。その視点が調和であり、継承であり、展開ではないかということになりました。ここに書いてあるのは、地域ごとに性格が違うことや特性があることは大事にしつつ、それらが緊張感や拮抗を生み出すこともあるかもしれませんが、そういったことをプラスに転化して調和を図り、次の世代に伝えていくことも大切であり、また、そう言った概念から継承も大切であるということです。そして、それだけでなく新たな地域振興やコミュニティづくりを促して行くためには、展開ということを常に意識してはどうだろうかということです。

次に4つの主体について。市民、企業・教育機関、行政がそれぞれに主体となって活動を展開していくことが必要であろうと考えました。そして、その活動が相まって協働という主体を作り上げることを提案しています。協働は一つの組織、団体が行うものではなく、これらの主体がまとまって協働という主体を作るという新しい考え方を提案しています。

5つの方策については、市が様々な計画を進めていますので、具体的なものはアイデア集に載せさせていただきましたが、その方策の内容は、5つにまとめられるであろうということを示しています。1つは、他の地域審議会でもこのことの重要性が話されていますが、新しい伊勢市のまちのシンボルとしての伊勢市駅前の整備の必要性が大切であるとの認識で、是非整備を進めてもらいたいということを強調させていただきました。2つめは伊勢市の環境についてです。自然環境について、行政を含め私たちが一体となって守っていく必要性があり、こういったことに取り組んでいくことが一体感の醸成の契機になると考えられます。3番目は、産業振興を通じた一体感の醸成についてです。若者にここで働く機会や場所を作っていかなければ、これからの伊勢の発展は難しく、産業振興を通じて、これが伊勢というものを起して、大きな力を生み出して、一体感の醸成につなげていく必要があると考えました。4番目については、公共施設の利用を通じた一体感の醸成についてです。従前は他のまちの施設はなかなか利用しづらかったですが、合併によって4つの市町村の公共施設をできるだけみんなが使えるような仕組みや情報共有をしていき、みんなが使うようになっていけば一体感が醸成されると思われました。最後の5番目ですが、最近、地域間や地域内の関係が希薄になってきています。おおきな一つのことによってみんながあつまって一体感を醸成していただくだけでなく、コミュニティが交流し、ボトムアップでのつながりを意識していくことで、一体感が醸成されていくと考えました。

答申に関する市長との意見交換(概要) 委員 市長

市長の意見は全委員の発言後にまとめて発言したものと

今からの行政はスリムになっていかなければならない。行政だけがやるのではなく、昔のように各地域において、自分たちでやっていく努力が必要になってきた。行政が中心でなく、地域をうまくつなぐハブになってやって

いってもらいたい。そうすれば人件費も削減できるし、予算も削減できる。地域の人づくりをすれば、事業が自分たちの中で生まれてくる。伊勢の特性のある企業の元気が出てくれば、他のまちに十分対抗できる。日本人の手工芸や隣との付き合いなど、日本独特の伝統を見直し、継承し、小さい事業をどんどん集めていくことで活性化できると思う。また、お金をかける観光施策じゃなくて、地域を見直し、面白い部分を再発見して、それが横につながって一体感を醸成していくと思う。

人が基本であり、行政がハブ的な役割をしなければならないことについては、まさにその通りだと考えている。それは責任逃れという意味でなく、役割分担をしていかなければならないと考えている。また、日本人の誇り、地域の価値を共有するようなまちづくりを展開していくことが大切だと思っている。

伊勢のにおいというものが最近ない。つまり伊勢だなんてものが最近ない。なんでも一般化してしまった。また、行政が物事を進めるのではなく、地域が物事を動かして、行政がバックアップするようになっていかなければいけない。

こんなにアイデンティティに恵まれたまちはないと思う。この地域の持てる力を十分発揮して地域づくりをしていきたい。

自然環境も大切であるが、市民の生活環境も大切にしていかなければならないと思う。

生活環境については、私たちは自然環境を痛めながら生活していることを念頭に、しっかりとバランスをとってやっていかなければならないと考えている。

伊勢としての魅力がない。観光客が宿泊してもらうために、神宮に関するものや伝統的な産業などを活用し、観光客を引き留めるように、何をしていかなければならないかを考えていかなければならない。それらがまとまって、私たちの自信が生まれると思う。

地域の魅力の創出については、地域の食文化などの魅力のあるイベントもあり、そのような売りになる仕掛けが必要だと思う。地元素晴らしい伝統産業が育っているので、これも売りだと思う。産業支援センターを中心に、支援体制の準備をしているところである。このセンターを中心に新しいチャレンジャーを募っていきたい。

いろいろなまちづくりに参加しているが、行政はまちづくりのプロとして、市民を誘導し、動かしてほしい。行政は、もっとまちづくりについて教えてほしい。また、子供たちが伊勢に戻ってこないのも、若い人が戻ってくるまちにしてほしい。観光客を良い顔でもてなすためには迎える市民が潤っていなければ良い顔はできない。住んでいる人が伊勢に住んで良かったと思えるようにしてほしい。

行政が主導的にリードをしてきた時代もあったが、その弊害も生まれてきた。たとえば、プロとして進めるがゆえに聞く耳を持たないなどの姿勢があった。そのことの反省で、市民参画へ舵を切ってきている。ただし、市民の皆さんの声をきいていけば、市民の皆さんに責任を転嫁できるということではない。あくまでも行政は結果責

任を取らなければならないと考えている。また、まちの誇りをしっかり持ちながら特色のある産業を育てることで、若い人が住みたいと思い、生業をもって住めるまちをつかっていきたい。

まちづくり市民会議で熱く議論している。行政を差し置いて議論をしている。他の地区の人と顔をあわせる機会が増えた。そのような顔を合わせる機会を増やすことが新市の一体感を醸成させることにつながっていくと思う。

いろいろな場で、さまざまな立場の方が会うことができる機会を作っていきたい。

自分たち一人ひとりが自分たちのまちをどう住みやすくしていくのかを意識しないと、一体感も伊勢市全体の活性化もないと思う。自分の生活だけを考え、地域やまちのことを考えない人が多くなってきた。(地域審議会のような)こういう会議に出ることで、伊勢市のことを考える機会をもらった。そうでなければ自分の家の中での生活と、会社での生活だけだったかもしれない。伊勢市の半分の人が、地域などつながりを持つようになれば、うまくいくのではないかと思う。市民会議のメンバーがリーダーになって、市民の意識を目覚めさせてほしい。

自分たちの身の回りのことを自分たちの想いを持って参加していくことは、まさしく私たちの目指していくところだと考えている。全体の危機感をもって、役割分担を認識して、まちづくりにつなげていきたい。行政には限界がある。市民の皆さんにきちんと情報を伝え、参画を求めるまちづくりを進めていきたい。これから地域内分権の話を各地域で進めていく。そのなかでも市民の皆さんに伝えていきたい。

軟らかい文章で一人でも多くの市民の方の目に留まるような伊勢らしい答申となったと思う。情報をいかに市民に伝えるかが大切だと思う。市民会議も市民に危機感を伝えようと熱く議論をしている。

いろいろな会議で議論されている熱い議論が自治体レベルから自治会レベルへ降りていくと熱が冷めていく。行政も市民もその熱を上げていくようにすることで、一体感が生まれてくると考えている。また、合併協議会の中で、お伊勢さんという言葉を入れることに議論があった。今回答申にお伊勢さんという言葉が入っているのは、その当時に議論をしたことに意味があったと思っている。

市民側もたとえば各種団体で、名簿作りなどで、行政区分にこだわらない名簿づくりを行うことによって、それに慣れていこうとしていこうとしている。また、TVなどで、合併した他の地域が、伊勢市として紹介されることなど、合併して(新たな市域で)広がった番組がつくられることなど、一つひとつを市民が喜びとして感じる事が大切だと考えている。

市民のみなさんの熱い思いを政策に展開できるように進めていきたい。合併して良かったというものを示さなければならぬと思っている。市民のみなさんの熱い思いを受けながら、ともに進んでいけるように地域内分権を進めていきたいと思っている。

今回の合併はすごいタイミングであったのだと振り返って思う。この地域は神宮を中心にしたまちであるが、お

木曳前に合併があったのは大きかったと思う。市町村が新しい時代の始まりである遷宮に携われたことが、新市の一体感を醸成したのではないかと思う。これから平成25年(ご遷宮)に向けていろいろなき動きがある中で、神宮を中心とした歴史や文化をしっかりと持つことで、一体感が醸し出されると思う。また、まちの歴史や文化をしっかりと子どもたちに伝えることで、若い人たちも戻ってきて、伊勢に住むようになると思う。

千載一遇のチャンスで合併した。お木曳行事に救われた。良い時を得たと思っている。

伊勢市駅前の整備について、他の地域の審議会から、しっかりと進めるべきとの意見があったのは非常にありがたいことであった。また、まちづくりにおいて、同じ人が複数の審議会や会合に出るのではなくて、なるべく多くの人がこういった場に参加できるように工夫をしてほしい。そうやってまちをみんなで作っていくんだという姿勢が大事だと思う。現在、地域内分権の話が出ているが、将来はこれにつけるのではないかと思う。市長にお願いしたいのは、苦勞をした地域は、苦勞をした甲斐があるような制度にしてほしい。

伊勢市駅前については、(他地域から)そのような意見があったことは非常にうれしいことだと思う。まだ具体的なものをお示しできないことが非常に残念だが、これから具体的なものを出していく中で、共通のものとして熟度を深めていきたい。また、汗をかいてもかかなくても同じということは、私は違うと思っている。地域の活動を進めていただくことについては、かいた汗が地域に還元される仕組みとしたい。

答申書については、本当に練り込んでいただき、大変うれしく思う。大きな方向性をいただいたとおもう。改めてお礼を申し上げたい。引き続きご指導をお願いしたい。

その他(事務局より連絡)

以前に答申をいただいた「総合計画の基本構想」について、3月の議会に提出される予定です。

答申が終了しましたので、現時点では次回の審議会の予定はありません。

委員任期は平成20年6月末までですが、何もなければ審議会の開催はありません。何か招集事項が生じた場合はご連絡いたします。

以上